

平成19年人口動態統計（確定数）

石川県分の概況

「平成19年人口動態統計（確定数）の概況」〔厚生労働省大臣官房統計情報部集計・9月3日公表（厚生労働省ホームページ <http://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei07/index.html>）〕による石川県関係分は、前年に比べ出生数、死亡数は増加し、死産数、婚姻件数、離婚件数は減少した。

【出生】

- ・ 出生数は、平成元年から平成13年までは、毎年1万1千人台で推移していたが、平成14年から1万1千人を切っている。
平成19年の出生数は10,294人で、平成18年の10,235人より59人増加した。
- ・ 平成19年の出生率(人口千対)は8.9で、平成18年の8.8より0.1増加した。
なお、全国平均は8.6で、本県はそれよりも高い。
- ・ 合計特殊出生率は、昭和40年代後半の第2次ベビーブームの後は、低下傾向にあるが、平成19年の合計特殊出生率は1.40で、平成18年の1.36を上回った。
なお、全国平均は1.34で、本県はそれよりも高い。

【死亡】

- ・ 死亡数は、平成9年から平成14年までは、毎年9千人台で推移していたが、平成17年から1万人を超えている。
平成19年の死亡数は10,717人で、平成18年の10,294人より423人増加した。
- ・ 平成19年の死亡率(人口千対)は9.2で、平成18年の8.9より0.3増加した。
なお、全国平均は8.8で、本県はそれよりも高い。
- ・ 死亡原因の順位は、第1位 悪性新生物 3,225人(人口10万対277.8)、第2位 心疾患 1,761人(人口10万対151.7)、第3位 脳血管疾患 1,290人(人口10万対111.1)であった。
- ・ また、平成19年の乳児死亡数は36人で、平成18年の25人より11人増加し、平成19年の乳児死亡率(出生千対)は3.5で、平成18年の2.4を上回った。

なお、乳児死亡率の全国平均は 2.6 で、本県はそれよりも高い。

(自然増加)

- ・ 出生と死亡の差である自然増加数は $\Delta 423$ 人で、平成 18 年の $\Delta 59$ 人より 364 人減少した。

また、自然増加率(人口千対)は $\Delta 0.4$ で、平成 18 年の $\Delta 0.1$ を下回った。

なお、自然増加率の全国平均は $\Delta 0.1$ で、本県はそれを下回った。

[死 産]

- ・ 死産数は、平成 15 年以降、減少しているところであるが、平成 19 年の死産数は 237 胎で、平成 18 年の 245 胎より 8 胎減少した。

平成 19 年の死産率(出生+死産 千対)は 22.5 で、平成 18 年の 23.4 を下回った。

なお、死産率の全国平均は 26.2 で、本県はそれよりも低い。

[婚 姻]

- ・ 婚姻件数は、平成 11 年から平成 18 年までは、毎年 6 千組台で推移していたが、平成 19 年の婚姻件数は 5,990 組で、平成 18 年の 6,267 組より 277 組減少し、平成 19 年の婚姻率(人口千対)は 5.2 で、平成 18 年の 5.4 を下回った。

なお、婚姻率の全国平均は 5.7 で、本県はそれよりも低い。

[離 婚]

- ・ 離婚件数は、平成 10 年以降、毎年 2 千組前後で推移しているところであるが、平成 19 年の離婚件数は 1,886 組で、平成 18 年の 2,007 組より 121 組減少し、平成 19 年の離婚率(人口千対)は 1.62 で、平成 18 年の 1.73 を下回った。

なお、離婚率の全国平均は 2.02 で、本県はそれよりも低い。

人口動態総覧（石川県分）

	実 数		率		平均発生間隔	
	平成 19年	平成 18年	平成 19年	平成 18年	平成 19年	平成 18年
出 生	10,294	10,235	8.9	8.8	時 分 秒 51: 04	時 分 秒 51: 21
合計特殊出生率	—	—	1.40	1.36	・ ・ ・	・ ・ ・
死 亡	10,717	10,294	9.2	8.9	49: 03	51: 04
乳 児 死 亡	36	25	3.5	2.4	243: 20: 00	350: 24: 00
新 生 児 死 亡	13	11	1.3	1.1	673: 50: 46	796: 21: 49
自 然 増 加	△ 423	△ 59	△0.4	△0.1	・ ・ ・	・ ・ ・
死 産	237	245	22.5	23.4	36: 57: 43	35: 45: 18
自 然 死 産	131	144	12.4	13.7	66: 52: 13	60: 50: 00
人 工 死 産	106	101	10.1	9.6	82: 38: 29	86: 43: 58
周産期死亡	36	52	3.5	5.1	243: 20: 00	168: 27: 42
妊 娠 満 22 週 以 後 の 死 産	25	44	2.4	4.3	350: 24: 00	199: 05: 27
早 期 新 生 児 死 亡	11	8	1.1	0.8	796: 21: 49	1095: 00: 00
婚 姻	5,990	6,267	5.2	5.4	1: 27: 45	1: 23: 52
離 婚	1,886	2,007	1.62	1.73	4: 38: 41	4: 21: 53

(注) 1 平成19年、平成18年は確定数である。

2 出生・死亡・自然増加・婚姻・離婚率は人口千対、乳児・新生児・早期新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生+死産）千対であり、周産期死亡・妊娠満22週以後の死産率は出産（出生+妊娠満22週以後の死産）千対である。

主な用語の定義

自然増加：出生数から死亡数を減じたもの

合計特殊出生率：15歳～49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、1人の女子が仮にその年次の年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子供数に相当する。

乳児死亡：生後1年未満の死亡

新生児死亡：生後4週未満の死亡

早期新生児死亡：生後1週未満の死亡

死産：妊娠満12週以後の死児の出産

周産期死亡：妊娠満22週以後の死産に早期新生児死亡を加えたもの